

## 近江温泉病院 入院患者さんへ

当院では下記の研究に診療情報を提供しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用し、また提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

|                 |  |
|-----------------|--|
| 研究課題            | 緊急事態宣言に伴う感染対策による、退院支援への影響<br>～当院「お悩みほっとアンケート」から分かる家族の不安への影響～   |
| 当院の研究責任者        | 総合リハビリテーションセンター 下村尚葵(しもむら なおき)   |
| 本研究の概要          | 回復期リハビリテーション病棟には、急性期の危機的な状況から脱した状態で患者さん及び家族は入院されるが、疾病において変化した心身機能への適応はできておらず、退院に向けて不安を抱えている状態である。その不安な思いに寄り添う視点を専門職として持てるようサポートするシステムとして、どのような不安を抱えているかを家族に聴取する、ほっとアンケートを導入している。昨年度から今年度にかけて、COVID-19により、患者・スタッフは家族との交流が制限される状況であり、退院支援に向けた準備に影響が出ており、家族がもつ不安の状況にも影響を与えていると考えた。そこで、今回、1回目の緊急事態宣言前後で、ほっとアンケートの結果を分析し、家族の不安に影響が出ていたかについて、検証したので、その結果について報告を行いたいと考える。検証は163名の患者家族から回収できたほっとアンケート320枚を、脳血管用・運動器用のアンケート(別紙参照)に分けた上で、それぞれ1回目の緊急事態制限が出される前と後に群を分け、①体のケアに関わる項目、②健康管理・リハビリに関わる項目、③退院後のサービスの各項目に回答した比率を算出し比較を行ない緊急事態宣言に伴う面会・外出・外泊の制限が及ぼす患者家族への影響を考察する。 |
| 利用し、又は提供する情報の項目 | 回復期リハビリテーション病棟に1回目の緊急事態宣言前後の入院患者163名の疾患名、入院日数、患者家族から回収できたほっとアンケート320枚  |
| 結果の公表           | 2022年2月4・5日に行わる回復期リハビリテーション病棟協会 第39回研究大会in東京   |
| 利益相反            | なし   |
| お問い合わせ先         | 0749-46-1125(病院代表)<br>担当者:総合リハビリテーションセンター 下村尚葵(しもむらなおき)  |